

Subject : **Japanese**

Production of Courseware
e- Content for Post Graduate Courses



Paper No. 02 : **日本語学 (Japanese Linguistics)**

Module 09 : **文の基本的な構造 (Basic Sentence Structure)**



ज्ञान-विज्ञान विमुक्तये



Development Team

Principal Investigator:

Prof. Anita Khanna

Jawaharlal Nehru University, New Delhi

Paper Coordinator:

Prof. Prashant Pardeshi

The National Institute for Japanese Language and Linguistics (NINJAL)

Content Writer:

Prof. Hisashi Noda

The National Institute for Japanese Language and Linguistics (NINJAL)

Content Reviewer:

Prof. Prashant Pardeshi


The National Institute for Japanese Language and Linguistics (NINJAL)

Japanese

Japanese Linguistics

文の基本的な構造 (Basic Sentence Structure)

Description of Module	
Subject Name	Japanese
Paper Name	日本語学 (Japanese Linguistics)
Module Title	文の基本的な構造 (Basic Sentence Structure)
Module ID	JPN-P02-M09
Quadrant 1	E-Text

 **Pathshala**
पाठशाला
A Gateway to All Post Graduate Courses

Japanese

Japanese Linguistics

文の基本的な構造 (Basic Sentence Structure)

文の基本的な構造

目的：このモジュールの目的は、**文の成分**や、**文の成分の内部構造**、**語順**など、日本語の文の基本的な構造を示すことである。

1. 文の成分

日本語の文は、基本的に (1) のような構造になっている。文の最後に**述語成分**が1つ置かれ、**述語成分**の前に**述語の格成分** (項) が1つか2つ以上、置かれる。

(1)

格成分	述語成分
-----	------

必要に応じて、(2) のように1つ以上の**副詞的成分**が**述語成分**の前に置かれることがある。

(2)

副詞的成分	格成分	述語成分
-------	-----	------

たとえば、(3) は**述語成分**「来た」と**格成分**「山田さんが」と**副詞的成分**「きのう」からできている文である。

(3) **きのう**山田さんが**来た**。

(4) は、述語成分「送ったそうだ」と 3 つの格成分「田中さんは」「山田さんに」

「メールを」と副詞的成分「きょう」からできている文である。「田中さんは」はこの
文の主題であるが、同時に述語（動詞）「送る」の格成分でもある。

(4) きょう田中さんは山田さんにメールを送ったそうだ。

2. 格成分の内部構造

格成分の内部は、基本的に (5) のような構造になっている。名詞の後に格助詞が付く。

(5) 名詞—格助詞

たとえば、(6) は名詞「山田さん」の後に格助詞「が」が付いた格成分である。

(6) 山田さん—が

名詞にそれを修飾する成分が付くときは、(7) のように修飾する成分は名詞の前
に付く。

(7) 名詞 修飾成分—名詞—格助詞

たとえば、(8) は名詞「山田さん」の前に名詞を修飾する成分「元気な」が付いた

格成分である。

(8) 元気な—山田さん—が

めいし しゅうしょく せいぶん れんたいし がくせい
 名詞を修飾する成分になるのは、「その」のような連体詞、「学生の」のように
 めいし つ けいようし けいようし げんき
 名詞に「の」が付いたもの、「やさしい」のような形容詞（イ形容詞）、「元気な」の
 けいようどうし けいようし にほん りゅうがく どうし ちゅうしん せつ
 ような形容動詞（ナ形容詞）、「日本に留学していた」のように動詞を中心にした節
 などである。

また、(9)のように格助詞の前後にとりたて助詞が付くこともある。

(9)

めいし	かくじょし	じょし
名詞	格助詞	とりたて助詞

たとえば、(10) は名詞「学校」の後に格助詞「に」が付き、その後にとりたて助詞
 つ かくせいぶん
 「も」が付いた格成分である。

(10)

がっこう	に	も
学校	に	も

とりたて助詞のうち「だけ」は格助詞の前に付くことがあるが、「も」「さえ」
 じょし かくじょし まえ つ
 「でも」など、ほとんどのとりたて助詞は格助詞の後に付く。

3. 述語成分の内部構造

じゅつごせいぶん ないぶ どうし けいようし けいようし けいようどうし けいようし
 述語成分の内部は、動詞か、形容詞（イ形容詞）か、形容動詞（ナ形容詞）か、
 めいし つ ちゅうしん ぶんぼう あらわ ようそ あと
 名詞に「だ」が付いたものを中心に、(11) のような文法カテゴリーを表す要素が後に
 つ こうぞう
 付く構造になっている。

(11) ごかん 語幹 — ヴォイス — アスペクト — こうていひてい 肯定否定 — テンス — ていねいさ — ムード

たとえば、(12) は動詞の語幹「並べ」の後にヴォイスを表す要素「られ」が付き、その後アスペクトを表す要素「てい」が付き、さらに肯定否定を表す要素「なかっ」，テンスを表す要素「た」，ていねいさを表す要素「です」，ムード（モダリティともいう）を表す要素「ね」が付いた述語成分である。

(12) なら 並べ — られ — — — てい — — — なかっ — た — — — です — — — ね

動詞の場合は、これらすべての文法カテゴリーを表す要素が後に付く可能性がある。

しかし、形容詞（イ形容詞）と、形容動詞（ナ形容詞）と、名詞に「だ」が付いたものは、ヴォイスとアスペクトを表す文法カテゴリーを表す要素が付くことはない。

それぞれの文法カテゴリーは、具体的に次のようなものである。

語幹は、述語の実質的な意味を表すもので、述語成分の中心になるものである。

「食べ」のような動詞の語幹か、「新し」のような形容詞（イ形容詞）の語幹か、

「静か」のような形容動詞（ナ形容詞）の語幹か、「雨」のように名詞に「だ」が付いたものの語幹である。語幹は述語成分の最初に置かれる。

ヴォイスは、使役や受身を表す文法カテゴリーである。使役を表すのは「(さ)

せ(る)」，受身を表すのは「(ら)れ(る)」である。語幹のすぐ後に付く。使役

あらわ ようそ うけみ あらわ ようそ りょうほう つか た
 を表す要素と受身を表す要素の両方が使われるときには、「食べさせられ（る）」

しえき あらわ ようそ さき つ うけみ あらわ ようそ あと つ しえき うけみ あらわ
 のように使役を表す要素が先に付き、受身を表す要素が後に付く。使役や受身を表

ようそ つ しえき うけみ あらわ
 す要素が付いていないときは、使役でも受身でもないことを表す。

どうさ じょうたい はじ お あらわ ぶんぼう
 アスペクトは、動作の状態や始まり、終わりなどを表す文法カテゴリーである。

じょうたい あらわ はじ あらわ
 状態を表すのは「てい（る）」、始まりを表すのは「はじめ（る）」や「だ（す）」

お あらわ あらわ ようそ
 など、終わりを表すのは「おわ（る）」などである。アスペクトを表す要素は、ヴォ

あらわ ようそ あと お じょうたい はじ お あらわ ようそ つ
 イスを表す要素の後に置かれる。状態や始まり、終わりを表す要素が付いていない

じょうたい はじ お あらわ
 ときは、状態でも始まりでも終わりでもないことを表す。

こうていひてい こうてい ひてい あらわ ぶんぼう ひてい あらわ
 肯定否定は、肯定か否定かを表す文法カテゴリーである。否定を表すのは「な

あらわ ようそ あと つ
 (い)」や「ん」である。「ない」はアスペクトを表す要素の後に付くが、「ん」は

あらわ あと つ ひてい あらわ ようそ つ こうてい
 ていねいさを表す「ます」の後に付く。否定を表す要素が付いていないときは、肯定

あらわ
 であることを表す。

か こ あらわ ぶんぼう か こ あらわ
 テンスは、過去かどうかを表す文法カテゴリーである。過去を表すのは「た」で

ひてい あらわ あと つ か こ あらわ つ
 ある。「た」は否定を表す「ない」の後に付く。過去を表す「た」が付いていないと

か こ げんざい みらい あらわ
 きは、過去ではない、つまり現在か未来であることを表す。

ていねいさは、聞き手に対してていねいと言うかどうかを表す文法カテゴリーである。ていねいさを表すのは、「ます」と「です」である。「ます」は、「聞いていませんでした」のようにアスペクトを表す要素と肯定否定を表す要素の間に置かれる。「です」は、「きいていませんでした」のように肯定否定を表す要素とテンスを表す要素の間に置かれるときと、「聞いていなかったすね」のようにテンスを表す要素の後に置かれるときがある。「です」も「ます」も付いていないときは、ていねいではないことを表す。

ムードは、事態に対する話し手の態度や、聞き手に対する話し手の態度を表す文法カテゴリーである。事態に対する話し手の態度を表すものとしては、関係づけを表す「の(だ)」や「わけ(だ)」, 確かかどうかを表す「らし(い)」や「かもしれな(い)」, 意志を表す「(よ)う」などがある。聞き手に対する話し手の態度を表すものとしては、命令・依頼を表す命令形や「てください」, 質問を表す上昇イントネーション, 確認を表す終助詞の「ね」などがある。ムードを表す要素は、他の文法カテゴリーを表す要素の後に置かれるのが普通である。事態に対する話し手の態度を表す要素と聞き手に対する話し手の態度を表す要素の両方が使われるときには、「おいしいらしいね」のように事態に対する話し手の態度を表す要素が先に付き、

き て たい はな て たいど あらわ ようそ あと つ あらわ ようそ なに つ
聞き手に対する話し手の態度を表す要素が後に付く。ムードを表す要素が何も付いて
いないときは、^{かんけい}関係づけがなく、^{い し}意志でもなく、^{めいはい しつもん かくにん}命令や質問や確認などでもなく、^{たし}確かなことだということを表す。^{あらわ}

4. 副詞的成分と述語成分の相関関係

「ゆっくり」や「たぶん」のような副詞的成分は、^{ふくしてきせいぶん}述語成分が表す意味を細かく
^{あらわ わ}表し分けたり、^{じゅつごせいぶん}述語成分が表す意味を文の初めのほうで聞き手に早めに伝えるもので
^{ふくしてきせいぶん}ある。副詞的成分は、^{ぶん}文にとって必ず必要な成分ではない。必要に応じて使われるもの
^{かなら ひつよう せいぶん}のである。^{ひつよう おう つか}

^{ふくしてきせいぶん}副詞的成分は、^{じゅつごせいぶん}述語成分の内部のどの部分と相関関係があるかによって (13) のよう
^{ぶんるい}に分類することができる。

(13) ^{ごかん そうかん}語幹と相関する副詞的成分：「ゆっくり」^{ちい こえ}「小さな声で」^{しず}「静かに」など

^{そうかん}ヴォイスと相関する副詞的成分：「わざと」^し「知らずに」^{よろこ}「喜んで」など

^{そうかん}アスペクトと相関する副詞的成分：「ずっと」^{がつ}「5月まで」^{いっしゆん}「一瞬」など

^{こうていひてい}肯定否定と相関する副詞的成分：「あまり」^{そうかん}「ぜんぜん」^{ふくしてきせいぶん}「めったに」など

^{そうかん}テンスと相関する副詞的成分：「きのう」^{ふくしてきせいぶん}「来年」^{らいねん}「3時に」^じなど

そうかん ふくしてきせいぶん まちが
ムードと相関する副詞的成分：「たぶん」「間違いなく」「どうか」など

ごかん そうかん ふくしてきせいぶん どうし けいようし ごかん あらわ じっしつてき い み
語幹と相関する副詞的成分は、動詞や形容詞などの語幹が表す実質的な意味をより

こま あらわ わ はし どうし ごかん たい
細かく表し分けるものである。たとえば、「走(る)」という動詞の語幹に対して

はや ふくしてきせいぶん つか はし い み そくど
「ゆっくり」や「早く」という副詞的成分を使うと、「走(る)」の意味を速度という

てん こま あらわ わ
点で細かく表し分けることができる。

そうかん ふくしてきせいぶん しえき うけみ かんけい どうさしゅ い し あらわ わ
ヴォイスと相関する副詞的成分は、使役や受身に関係がある動作主の意志を表し分

あぶ ばしょ い しえき あらわ ようそ
けるものである。たとえば、「(危ない場所に)行かせた」という使役を表す要素に

たい し ふくしてきせいぶん つか どうさしゅ い し い
対して「わざと」や「知らずに」という副詞的成分を使うと、動作主の意志で行ったか

あらわ わ
どうかを表し分けることができる。

そうかん ふくしてきせいぶん じょうたい じぞく じかん どうさ はじ かた お
アスペクトと相関する副詞的成分は、状態が持続する時間や、動作の始まり方や終

かた こま あらわ わ にほんご べんきょう
わり方をより細かく表し分けるものである。たとえば、「(日本語を)勉強している」

じょうたい あらわ ようそ たい ねんかん こうこうせい ふくしてきせいぶん
という状態を表す要素に対して「1年間」や「高校生のときから」という副詞的成分

つか じょうたい じぞく じかん こま あらわ わ
を使うと、状態が持続している時間を細かく表し分けることができる。

こうていひてい そうかん ふくしてきせいぶん こうてい ひてい つよ こま あらわ わ
肯定否定と相関する副詞的成分は、肯定や否定の強さをより細かく表し分けたり、

ひてい ぶん はい き て はや つた
否定であることを文の初めのほうで聞き手に早めに伝えるものである。たとえば、

「(このマンガは) おもしろくない」という否定を表す要素に対して「あまり」や「ぜんぜん」という副詞的成分を使うと、否定の強さを細かく表し分けることができる。また、「あまり」などが文の初めのほうにあれば、その文が否定であることを聞き手に早めに伝えることができる。

テンスと関連する副詞的成分は、事態が起きる時間をより細かく表し分けたり、事態が起きる時間を文の初めのほうで聞き手に早めに伝えるものである。たとえば、「(日本に) 行った」という過去を表す要素に対して「先月」や「5年前」という副詞的成分を使うと、過去の時間を細かく表し分けることができる。また、「先月」などが文の初めのほうにあれば、その文が過去であることを聞き手に早めに伝えることができる。

ムードと関連する副詞的成分は、主に、事態が確かかどうかや、聞き手に依頼をすることを文の初めのほうで聞き手に早めに伝えるものである。たとえば、「(それは) うそすいりよう」^{うそ すいりよう}という推量を表す要素に対して「たぶん」という副詞的成分を使うと、その文があまり確かではないことを述べていることを聞き手に早めに伝えることができる。

なお、ていねいさと関連する副詞的成分はない。

キーワード :

ぶん せいぶん じゅつごせいぶん かくせいぶん ふくしてきせいぶん ごじゅん
文の成分 述語成分 格成分 副詞的成分 語順

